

将来展望を見据えた「くりやま創生」を



栗山町長
楠原 紀 昭

あけましておめでとうございます。町民の皆様には、平成30年の輝かしい新春をご家族お揃いで健やかに迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、一年の世相を表す「今年の漢字」に決定された「北」に象徴されますように、日本列島を震撼させた北朝鮮の弾道ミサイル発射をはじめ、九州北部地区で発生した集中豪雨による大規模災害など、あらためて平和と安全の尊さを実感した年でありました。国政においては、国民が疑念を抱くような政治問題や、10月の衆議院解散総選挙など、混乱を極めた一年でもありました。

一方、道内にあつては、比較的天候

にも恵まれ大きな災害もなく、平穏な一年であったかと思えます。本町の基幹産業である農業では、水稲が7年連続の豊作となったのははじめ、畑作物全般においても総じて平年並みの作柄となり、豊穡の出来秋を迎えられましたことは、町内経済にとりまして大変喜ばしい結果でありました。

また、長年の懸案でありました角田跨線橋の撤去により角田地区と栗山市街に一体感が生まれ、また、新町通り再生整備や馬追橋架換の事業化が決定するなど、都市基盤の充実や地域の活性化に弾みがつくものと考えております。

さて、本年は、明治21年に偉大な先人たちが開拓の鋤を打ち下ろしてから

130年目を迎えました。この節目を機に、本町発展の歴史を振り返り、幾多の困難を乗り越えた先人の苦勞に感謝と敬意を表するとともに、不屈の精神を次世代に引き継ぎ、「ふるさと栗山」の輝かしい未来を築いていかなければなりません。

また、平成31年度からスタートとなる、栗山町第6次総合計画「後期実施計画」の策定年度でもあります。あらゆる機会を通して議論を深め、10年・20年先を見据えたまちづくりを展開していく必要があります。

このように本年は、未来に向け力強く羽ばたく、そして、将来への道筋を切り拓く、極めて重要な一年であると考えているところであります。

開拓者の不屈の精神に心胆を傾け、将来にわたり持続可能な明日の「くりやま創生」を目指し、「誰もが笑顔で、安心して暮らすまち」の実現のため、職員一丸となって全力で取り組んでまいりますので、町民の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、新しい一年が町民皆様にとりまして、希望に満ちた明るく健やかな年でありますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

期待をしているところでございます。

さて、昨年10月の衆議院議員総選挙では、自民党が大勝を果しました。本町にとつても福祉、教育、医療、防災、行財政改革など課題は山積みですが、誰もが安心して暮らせる栗山町を実現するため、二元代表制の一翼を担う栗山町議会も、町民の皆様にとつてよりよい政策を生み出すことができるよう議員個々の資質をより一層高め、議会力を高めることが重要になります。今一度、足元を見つめ直し、町民の皆様

の信託に応えながら、時代にふさわしい議会づくりを目指してまいります。

今年の干支は戌年です。戌年は前向きに地道に努力を重ねるかどうかで成長するか、枯れてしまいか運氣が大きく変わると言われています。良い一年とするために、栗山町議会は、議会基本条例のもと徹底した情報公開を行いながら、積極的に町民の皆様の前に出て対話を重ね、信頼され存在感のある豊かな議会を築くために、さらなる議会改革と運営に努めてまいります。本年もより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

信頼され存在感のある議会を築くために



栗山町議会議員
鴨川 和 彦

健賀新年

本年も
よろしくお祈りします

町長 楠原 紀 昭
副町長 佐々木 学
ほか職員一同

議長 鴨川 和彦
副議長 大西 勝博
議員 友成 克司
檀崎 忠彦
佐藤 則男
重山 雅世
置田 武司
大井 賢治
千葉 清己
土井 道子
三田 源幸
藤本 光行

農業委員会
会長 吉田 寿栄
同代理 小川 信一
監査委員 谷田 進太郎
大井 賢治

教育委員会
教育長 南 條 宏
同代理 湯 地 定 暁
選挙管理委員会
委員長 村上 哲
同代理 砂田 正 樹
公平委員会
委員 志 摩 隆
坂口 由紀子
中川 昇

国民健康保険運営協議会
会長 北 輝 男
同代理 橘 一 也
都市計画審議会
会長 梶 澤 勝 則
同代理 檀 崎 忠 彦

社会教育委員
委員長 藤 井 吉 美
副委員長 小 川 真 寿 美
副委員長 永 池 英 彦
スポーツ推進委員
委員長 岡 山 典 弘
副委員長 永 池 英 彦



500号発刊にあたり町民の声を特集。また「かしこい消費者とは」と題して楽しいショッピングの座談会や共自治会の地蔵堂完成などを掲載。



【500号】
昭和52年
4月15日発行

フィルムカメラにより作成された最後の記念号。以降、デジタル一眼レフカメラが導入されるなど編集が高度化。また、この号から生涯学習情報誌「マナビイ」を広報くりやまの中に掲載。



【1100号】
平成14年
4月15日発行

「角田村公報」としてスタート。B5判のザラ紙で資料不足の関係で1000部程度の発行。（3戸に1部の割合で配布）



【創刊号】
昭和22年
6月10日発行

紙面サイズがA4判となり、表紙カラーが年4回に957号からはパソコンで広報が作成されるようになり、編集時間が大幅に短縮。



【1000号】
平成10年
2月15日発行



【1200号】
平成21年
9月1日発行

広報くりやまの歴史を振り返る特集を組む。また、長寿医療制度のお知らせや子育て支援情報、元気が一番＆健康のコラムなど、町民の生活に関わる内容をわかりやすく掲載。

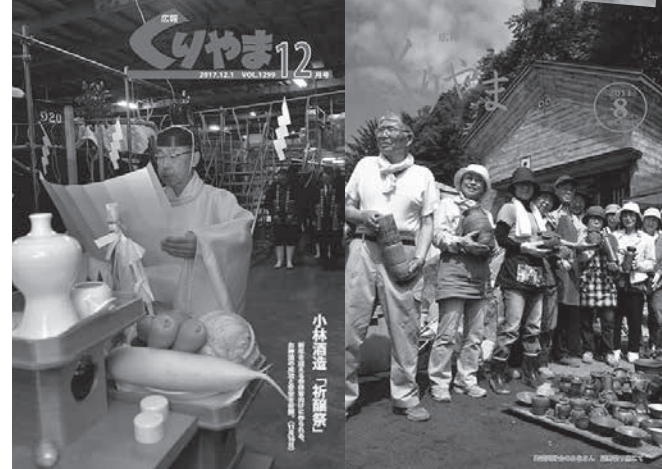
歴史を刻み続けてきた

歴代の広報紙

町民の皆さんとともに歩み続けて 「広報くりやま」 発刊1300号



昭和22年6月に創刊した「広報くりやま」（創刊当時は『角田村公報』）。時代の流れの中で、さまざまな変化を繰り返しながら、「行政と町民の皆さんを結ぶパイプ役」として歩み続けてきました。



「広報くりやま」ができるまで

①企画&情報収集
町民の皆さんや職員などから寄せられた情報や町の動きなどを精査し、伝えるべき内容は何か、どのようにして掲載するかを考えます。

②取材
現場の雰囲気や肌で感じて記事を書くようにしており、広報担当者が直接出向くように心掛けています。

③原稿作成
広報担当者が全ての記事を作成します。

④校閲・校正
原稿の推こみや画像の確認などを行います。

⑤製版・印刷
印刷会社で6200部が印刷・製本されます。

⑥チラシの丁合
町や町内の団体などから折り込みの依頼があったイベントなどのチラシを丁合します。

⑦納品
発行月の前月末に印刷業者から納品され、チラシの折り込みを行います。

⑧配布
市街地は配布業者が、自治会の一部を広報担当者が配布し、残りは郵送して各家庭に配布しています。

（切り取り線）

郵便はがき

069-1512

（受取人）

栗山町松風3丁目252番地
栗山町総務課
広報・防災・情報グループ 行

※必ずご記入ください。

性別（男・女）年齢（歳）

※広報についてご意見などがあれば自由にお書きください。

【問い合わせ】町総務課広報・防災・情報グループ TEL 73-7501（直通）

もう一つの広報「声の広報」

栗山リーディングサービス とらいあんぐる

楽器のトライアングルのように、利用者・ボランティア・地域の皆さんが、ふれあいとぬくもりのあるやさしいメロディーを奏でることを目指して、平成 10 年から活動が続いている声のボランティアサークル「とらいあんぐる」。

「声の広報くりやま」などの録音 CD を、目の不自由な方や高齢の方へ届け、安否確認と交流を行っているほか、個人のお宅に伺い、新聞や小説などを読むプライベートサービスなどにも取り組んでいます。

声の広報づくりでは、録音の数日前に編集会議を開き、人名や固有名詞の読み方などをチェック。録音当日は、「目のかわり」を果たすように、質の良い CD 制作に努めているそうです。

会長の出村鴻子さんは「時代とともに利用してくださる方々の生活環境も変わってい



ますが、私たちは常にその流れに沿って真摯に取り組んでいきたい」と活動への思いを語ります。

サークルでは「正確（棒読みにならないよう）に、聞きやすく（わかりやすく）音訳することに心掛け、心のこもった CD をお届けしたい」と話しています。また、サービスを利用される方と音訳ボランティアの入会を呼び掛けています。

【申込先・問い合わせ】

栗山リーディングサービス
「とらいあんぐる」会長 出村鴻子
☎・FAX 72-1035
町保健福祉課福祉・子育てグループ
☎ 73-2222

読み手の目線で

「広報くりやま」は名称・姿を変えながら、今月号の発行で 1300 号を迎えました。

70 年の歴史の中で、さまざまな内容をお伝えしてきましたが、常に意識していることは、行政からの一方通行の情報提供にならないようにすることです。

広報紙は行政の専門誌ではなく、また、公文書のような文章では、読みたいという気持ちにならないと考えています。読み手の視線を大切にしながらの紙面づくりを心掛け、新聞の用字用語にならって「記者ハンドブック」（株式会社共同通信社発行）に基づいて記事を作っています。

また、文章を読んでいただくために、タイトルや写真などの配置、レイアウト（見せ方）も大切にしています。「読んでみたい」と思っていたために、見やすいレイアウトになるよう試行錯誤を重ねています。

広報紙が持つ「広報の力」

パソコンやスマートフォンなどでいつでも瞬時にあらゆる情報が手に入る今、町でもホームページ

やツイッターを運用し、町の情報やイベントのお知らせなどを発信しています。しかし、全ての方がそれらの情報を得られるとは限りません。

その点、広報紙は直接、皆さんの手元に届けられるものであり、町が進めている施策やまちづくりを、老若男女を問わず幅広くお伝えできるのは、広報紙しかありません。

「広報くりやま」は、手にとっていたいただいた皆さんが、新しい考え方に出会い、行動するきっかけになればと願いながら作成しています。また、町の魅力や皆さんの頑張っている姿を紹介することで、ふるさとに誇りを持ち、もっとと栗山町を好きになってもらいたいと考えています。

まちと人を結ぶために

「行政と町民の皆さんを結ぶパイプ役」である「広報くりやま」広報紙を通して、まちとそこに住む人が共通の意識を持ち、お互いの信頼関係を築いていくためには、読者である町民の皆さんの声がかかせません。「広報に関するアンケート」へのご協力をはじめ、たくさんのご意見、ご感想をお待

(切り取り線)

広報に関するアンケート

下記の各質問に対し、あなたの考え方に最も近いものいずれか一つを選んで、() に○をつけてください。

質問① 「広報くりやま」を読んでいますか？

- () 読んでいる () たまに読んでいる
() 読んでいない

質問② 「広報くりやま」の内容に満足していますか？

- () 満足している [質問④へ]
() ある程度満足している [質問④へ]
() 満足していない [質問③へ]

質問③ 満足していない理由は何ですか？

- () 紙面が見づらい
() 内容が物足りない
() その他 []

質問④ よく読むコーナーはどれですか？（複数回答可）

- () 全て () 特集 () 青年会議所
() 町史編さん室 () 地域おこし協力隊
() まちの話題 () 生活・安全
() ごみ () 消費生活相談室・栗山公園だより・まちの駅イベント
() 元気が一番 () 保健福祉のコラム
() まちの information () マナビィ
() 暮らしのカレンダー
() その他 []

※アンケートは郵送いただくか、町総務課広報・防災・情報グループまでお持ちください。

(切り取り線)



さまざまな通信ツールを 使って積極的な情報発信

広報活動は、紙媒体だけではなく、情報通信技術の発達に伴い、さまざまな通信ツール（道具）を通して電子化された情報をいつでもどこでも得ることができるようになりました。

町でも、それぞれの特性や長所を生かしながら、積極的に情報発信をしています。

（主な広報活動）

◆「広報くりやま」の発行
町の基幹的な情報媒体



平成 26 年北海道広報コンクールで入選になった「広報くりやま」の見開きページ

◆ホームページへの掲載
インターネットを使ってタイムリーな情報を提供することができる通信媒体



町ホームページでは、まちの情報や暮らしのお知らせなどを掲載しています。

◆デジタルブック（スマートフォン）のアプリなどいつでも広報紙が閲覧できるサービス」の「マチイロ」から電子化された広報を提供（27 ページ参照）



スマートフォン用アプリケーションの読むことが出来ます。